

環境にやさしい公共移動手段の導入を求める意見書

道路や上下水道などの社会基盤施設は、公共が主体となり計画的な整備を進め、その利便性は年々向上しています。地域公共交通も暮らしを支える社会基盤整備の一つとして捉え、地域公共交通の充実を図る必要があります。

障がい者や高齢者など、車を利用できない人々は、地域公共交通がなければ移動が制約され、不便な生活を強いられます。超高齢社会を迎え、車を運転しない高齢者はさらに増加していくものと予想されます。

また、地球環境にやさしい町を築く上でも、地域公共交通の役割が見直されています。

地域公共交通を道路や上下水道などの社会基盤施設と同様に捉え、行政がまちづくりの一環として計画的に整備を進める責務があります。

県内では扶桑町以外は地域公共交通の取り組みが行われ、近隣市町にはすでに巡回バス・コミュニティバスが整備されています。

小牧市・岩倉市はデマンドタクシーの実証実験を実施し、本格導入を進めています。

当町では、扶桑駅にエレベーターも設置され、駅の利便性が増し、住民のみなさんの行動範囲もますます拡大されることが見込まれます。障がい者・高齢者の意識調査でも巡回バスを要望する意見が多く寄せられています。

住民のみなさんが一刻も早く、駅・公共施設・病院・商店等に気軽に行けるよう、環境にやさしい公共移動手段の導入に向け、「町内の交通移動手段に関する実務担当者会議」において早急に取りまとめることを求めます。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出します。

平成27年3月25日
愛知県丹羽郡扶桑町議会

扶桑町長 江戸 満 殿